

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	交流、入居共に地域密着型として取り組んでいる。	職員会議(月1回)後の勉強会の中で、各職員と向き合い、理念について”実践出来ているかどうか”話し合っている。 幹部会で理念の見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に行幸小学校の生徒さんの訪問、又運動会等の見学に利用者の方が行っている。公民館等のイベントなど参加するようにしている。神社のお祭りへの参加。	散歩途中に野菜をもらったり、挨拶しながら地域の方々と交流している。また、近くの小学校の生徒さんが慰問に来てくれたり、地区の方がボランティアとして活動しに来てくれたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の際地域の方への挨拶を通しての交流		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を開き、GHの活動内容の報告、GH・家族・地域との意見交換を行い、今後のサービスに活かしている。	定期的な運営推進会議を開催しており、町内会長や民生委員、市職員は必ず出席している。行政の方から得られる地域行事等の情報は、職員間で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からのアンケート依頼の協力、運営推進会議での情報交換	長船地区の地域ケア会議や運営推進会議を通じて、行政の方から地域のイベントや勉強会等の情報を得ている。また、ケアサービス等の情報交換を交え、行政の方と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議、ケア会議での勉強会にてケアの取り組みを行っている。	職員会議後、身体拘束について勉強会を行っている。また、外部で受けた講習会等の情報を必ず会議で発表し、職員間で共有・再確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、勉強会にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設にパンフレットをやテキストを設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際十分な説明を行っている。また、身体状況の変化によって退去の際は事前に家族と話し合いの場を作り不安の軽減に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	こまめにご家族と連絡、相談をして、ケアプランに反映している。	ご家族が面会した際、意見等を聞き出している。また、ご家族からの意見や要望は申し送りやケース会議を利用して、運営に反映させられるよう話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務報告書を月に1回提出をして、意見や提案を行っている。	申し送りの中で、リーダーが職員に意見や要望等を聞き入れ、マネージャーに報告している。また、夜勤帯を利用して、マネージャーが個々に話を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置、業務内容の確認、職員との面談など定期的に行い把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の際に勉強会、研修会の案内の表示や勤務調整を行い参加しやすい環境を作ったり支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加への支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に必ずアセスメントを行い、本人・家族から事前に思いについて聞き、GH入居後のサービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡をして状況説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体調・状態の変化に応じてこまめにケアプランの見直しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で必要とされていると感じてもらえる様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と協力しながら外泊・一時帰宅等を通して、本人の希望に近づける様に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りに行くなどして努力している。	兄弟や家族が迎えに来て日中実家へ戻ったり、馴染みの店に立ち寄りしたりしている。また、受診の際、外食や散髪をして帰ってくるなど、個々のリズムを尊重しながら関係作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者、職員のみ関係に偏ることのないように、入居者同士の関係作りが行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、相談があれば対応するように考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	GHの生活の中でのなるべく本人の意向に添えるように努力している。	家族の協力を仰ぎつつ、散歩・外出・行事等を利用して、入居者本人の思い等を聞き出すように努めている。また、帰宅願望が強い方には、家族へ電話する等、本人の意思に沿った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにより、情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	笑顔ある生活、身体機能の維持などを常に考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケース会議にて話し合いを行っている。	家族の意見等も盛り込みつつ、入居者個々の情報を出し合い、比較・検討しながら、プランを作成している。また、モニタリングしながら現状分析し、プランを確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の変化に気づき、可能性があれば日々の生活に活かしていけるように気をつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	退院時等、早期リハビリが必要な場合リハビリ経験がある職員に勤務調整したりと個々に合った対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度の往診、急変時にも対応してくれている。	週一回、提携医が往診に当たっており、内科や病院のかかりつけ医は家族が対応している。緊急時の対応やかかりつけ医との連携も上手く図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診、受診を出来る限り職員が対応することで主治医、看護師と直接情報交換を行い、入居者が安定して生活が送れるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その時々に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHの限界、身体状況の変化から今まで行っていたサービスが出来なくなるような場合は、事前に家族に相談し、今後のことについて話し合っている。	入居前、重度化や終末期に向けた事業所の対応について家族に説明している。また、終末期においては、家族・主治医と相談しながら、方針を確定している。基本的には、事業所での看取りは行っていない。	職員間での看取りに対する方針の共有をさらに深めて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会は行っている。実践力は経験になるのでグループホームのみの勤務経験のスタッフは対応が難しい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年2回訓練をしている。消防署職員の指導も受けている。	年二回、昼夜を想定しての避難訓練を実施している。また、消防署主催の救命講習等にも参加している。	運営推進会議等を利用して、地域の方にも参加してもらえるような訓練の実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力している。	食事前・後のトイレへの声かけは、プライバシーに配慮しながら個別で行っている。常に、今までの生活歴やプライドを尊重した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務の都合で外出できない時もあるが努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみやおしゃれが出来ない方は特に職員が注意し気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	する人の偏りはあるも、入居者と職員が共にいけるよう今後も職員の意識を高めていく。	積極的に調理へ参加している入居者もあり、決して無理強いせず、個々の力量に合わせた食事支援に努めている。また、職員も入居者と一緒にテーブルを囲み、会話を楽しみながら介助に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	低栄養、脱水に注意し、食事・水分が少ない方は特に提供内容を工夫して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後は必ず行っている。日中は自分で出来る人は行い、介助のいる人は希望者のみ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の理由を追求し、環境・職員の対応で改善できる場合はサービスを見直している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声かけやパット交換をまめに行うことで、排泄の自立をサポートしている。また、夜間のみポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、排泄時間、内服調整など工夫し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全員が毎日入浴というのは難しい。希望時は優先している。	2日に1回の入浴を基本としている。また、浴室内にエアコンを設置し、一年中通して快適にお風呂が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活状況、現在の身体・精神状況など把握し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と相談し、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力もあり、実行できている。誕生日外出の日を作りご家族・本人と話を希望の場所に行けるよう支援に努めている。	年間行事に沿って外出したり、誕生日には個人で職員と一緒にいきたい所へ外出している。また、家族が外食へ連れ出したり、本人の気分や要望に合わせて、草取りや散歩、外食をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と話し合いをして、財布に少し持っている方もいる。また、買い物時に希望の物を買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族からの要望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に保ち、利用者様が作られたものを飾ったりして日々対応している。	本人希望の場所で過ごせるように、椅子や机の配置を工夫している。また、時季の景色等を収めた写真を掲示し、季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下側に席を作り、花壇の花を楽しむ場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していたものを居室に使用して過ごしやすい居室を支援している。	入居者それぞれの居室には、タンスや仏壇、鏡台等、馴染みの物が持ち込まれている。また、自作の塗り絵を室内に掲示したりして、居心地良い空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・自室など必要に応じて張り紙で表示している。		